

組織的支援につなげよう

～事例「課題の提出期限を守れない生徒」への支援を考える～

- | | |
|--------|--|
| 1. 目的 | <ul style="list-style-type: none">・教員の経験則に基づき対応してきた特別支援教育に係る課題を、支援ヒント集を利活用しながら学校全体で共有し、教員間の協働を通して解決に取り組む機会を設ける。・既存の諸会議を利用し、組織的な支援につなげる。 |
| 2. 対象 | 教職員 |
| 3. 時間 | ステップ1：30分
(必要に応じて)
ステップ2：25分
ステップ3：20分

※ステップ1～3は、それぞれ別日に設定することを想定しています。 |
| 4. 形態 | ステップ1：教科会議及び学年(科)会議でのKPT(ケプト)法を用いた演習・協議
(必要に応じて)
ステップ2：成績会議等の学年(科)拡大会議での共有
ステップ3：職員会議における校内共通の取組への展開

※校内研修として、ステップ1のみを実施することも可能です。 |
| 5. 準備物 | <input type="checkbox"/> 支援ヒント集(ステップ1の前に全員に配付)
<input type="checkbox"/> KPTシート(A3) ※詳細は次ページに記載
<input type="checkbox"/> 付箋 ※詳細は次ページに記載 |

■研修前

- 研修会の概要等について、予め会議や紙面等で伝達する。ステップ1では、事前に個人の思考をある程度まとめておくよう依頼する。
- 準備物やグループ構成等を決定し、事前に通知する。
- 支援ヒント集を各自印刷したり、タブレットPC等にダウンロードしたりして、当日閲覧できるようにしておく。

■研修当日

ステップ1：【教科会議】及び【学年会議】での演習・協議

流れ	進め方	留意点等
1 研修の説明 (5分)	○研修の目的、流れ、時間を確認して、見通しを持つ。	○目的：上記「1. 目的」参照 ○流れ：左欄「流れ」参照
2 演習・協議	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>【教科会議で実施する場合】 支援ヒント集の事例4「課題の提出期限を守れない生徒」(P.27)をテーマにKPT法を用いて分析する。視点は教科担当者とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・KPTシートは1教科1枚 ・付箋は1学年ピンク色、2学年青色、3学年黄色、過去の事例は緑色など色分けをしてもよい </div> <div style="width: 45%;"> <p>【学年会議で実施する場合】 同テーマをKPT法により分析する。視点は学年主任及び担任とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケプト用紙は学年1枚 ・付箋はホームルーム担任毎や、担任と学年主任など色分けをしてもよい </div> </div> </div>	
①付箋に記入 (5分)	○個人の思考を付箋に書き出す。	○K、Tに焦点を当てて付箋記入及び協議を進める。
②付箋の貼付 (7分)	○KPTシートに付箋を貼りながら説明する。	○付箋の内容を簡潔に説明しながら、該当箇所(K、P、T)に付箋を貼る。付箋の内容が似ているものは重ねたり分類したりしていく。
③協議 (8分)	○生徒の実態の捉え方や支援に対する考えを共有する。	○対応における共通点や相違点を教科内等で確認する。 ○先輩教員の過去の事例を共有する時間を設け、現状の改善につながる方策を探る。
3 まとめ (5分)	○個人の振り返りを行う。 ○支援ヒント集の活用について説明する。	○協議を通して新たに気付いたり考えたりしたことを振り返る。 ○支援ヒント集を活用しながら、他の方策を模索する。
<p>※早急に組織的な対応が必要な生徒への支援方法を協議した場合や研修成果を全校に広げたい場合等は、ステップ2、3の実施を検討する。実施する際は、事前に学年拡大会議において報告する内容の共通理解を図っておくとよい。</p>		

ステップ2：【学年拡大会議】での共有

<p>1 共有</p> <p>①各教科及び学年発表 (10分)</p> <p>②分析・整理 (10分)</p>	<p>○各教科及び学年の代表者が、協議内容について発表する。</p> <p>○共有した内容を分析・整理し、学年としての今後の支援の方向性等を明らかにする。</p>	<p>※研修の目的、流れ、時間は事前に通知しておく。</p> <p>○状況に応じて、プロジェクターや実物投影機を使用して進めてもよい。</p> <p>○ステップ1で検討したK、Tを中心に発表する。</p> <p>○発表内容を踏まえて、共通点や相違点を分析し、学年全体として共通して実施できる支援策を整理する。</p>
<p>2 まとめ (5分)</p>	<p>○研修の成果を全体で確認する。</p>	<p>○(ステップ3を実施する場合)職員会議において報告する内容の共通理解を図る。</p>

ステップ3：【職員会議】での共有

<p>1 共有</p> <p>①各学年発表 (10分)</p> <p>②質疑応答 (5分)</p>	<p>○各学年の代表者が、協議内容について発表し、全体で共有する。</p> <p>○他学年の教員等からの質問や意見を集約し、支援策に対する共通理解を図る。</p>	<p>※研修の目的、流れ、時間は事前に通知しておく。</p> <p>○状況に応じて、プロジェクターや実物投影機を使用して進めてもよい。</p> <p>○ステップ2で整理した「学年全体として共通して実施できる支援策」を中心に発表する。</p> <p>○学校全体として共通して実施する支援策を確認する。</p>
<p>2 省察【個人】 (5分)</p>	<p>○これまでの研修での学びを振り返り、実践につなげる。</p>	<p>○省察の視点(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別な配慮が必要な生徒への支援について新たに気付いたことや考えたこと ・特別支援教育の推進に向けて、個人及び組織として、今後取り組むべきこと

■研修後

- 個人での省察を踏まえて、再度教科や学年ごとに目指す生徒の姿を見直す。
- 学校全体で組織的な支援に向けた縦と横の連携について検討を続ける。
- 生徒の実態に応じて、別な事例を設定して、再度ステップ1から研修を行う。